

立正大学博物館年報

10

平成 23（2011）年度

立正大学博物館

序

立正大学博物館は、平成 14 年 4 月に熊谷校地に開設された。したがって、平成 24 年は 10 周年となる。この 10 年間における博物館活動は、年間 2 回の特別展と企画展、博物館学芸志望学生の博物館館務実習の受け入れなどの活動に邁進してきた。

この間に博物館開設に功績のあった、開設時に学芸員を兼ねた博物館学芸員課程の上野恵司特任講師を失い、その後は非常勤の学芸員で対応せざるを得なかった。一方で学芸員の任期は定められており、長期展望を持てずに対応してきたところである。

博物館は大学内における教育施設として重要なものであるが、文系・理系を問わず、大学内に博物館を設置している大学は決して多くはない。立正大学博物館は、開設した当初とは熊谷校地の環境が大きく変わり、博物館学芸員志望学生が多い文学部・仏教学部などの学部は大崎 4 年一貫教育体制となって熊谷を去った。

この結果、恒常的に博物館を訪れる学生は激減し、博物館活動も積極性が失われるようになった。10 年を区切りとして博物館運営を再考する時期になったものといえよう。

平成 24 年 4 月

博物館長 池上 悟

目 次

序

目次

I. 博物館の概要…………… (2)

- (1) 組織と職員
- (2) 立正大学組織表
- (3) 立正大学博物館規定
- (4) 立正大学博物館細則
- (5) 施 設

II. 事業報告…………… (13)

- (1) 開館日数・入館者数
- (2) 出 版
- (3) 資料活用
- (4) 常設展示・企画展示
- (5) 調査・研究
- (6) 教育普及
- (7) 受贈資料

III. 受贈図書目録…………… (29)

I. 博物館の概要

(1) 組織と職員

a. 職員

館長 池上 悟
 専門職員 内田勇樹
 事務嘱託 稲澤徳多朗

第4号委員

新井敦志 (法制研究所長・法学部教授)
 西松能子 (心理学研究所長・心理学部教授)

第5号委員

秋田貴廣
 (博物館関係学識経験者・仏教学部教授)

第6号委員

野沢佳美
 (文化史関係学識経験者・文学部教授)

第7号委員

島津 弘
 (自然史関係学識経験者・地球環境科学部教授)

b. 運営委員

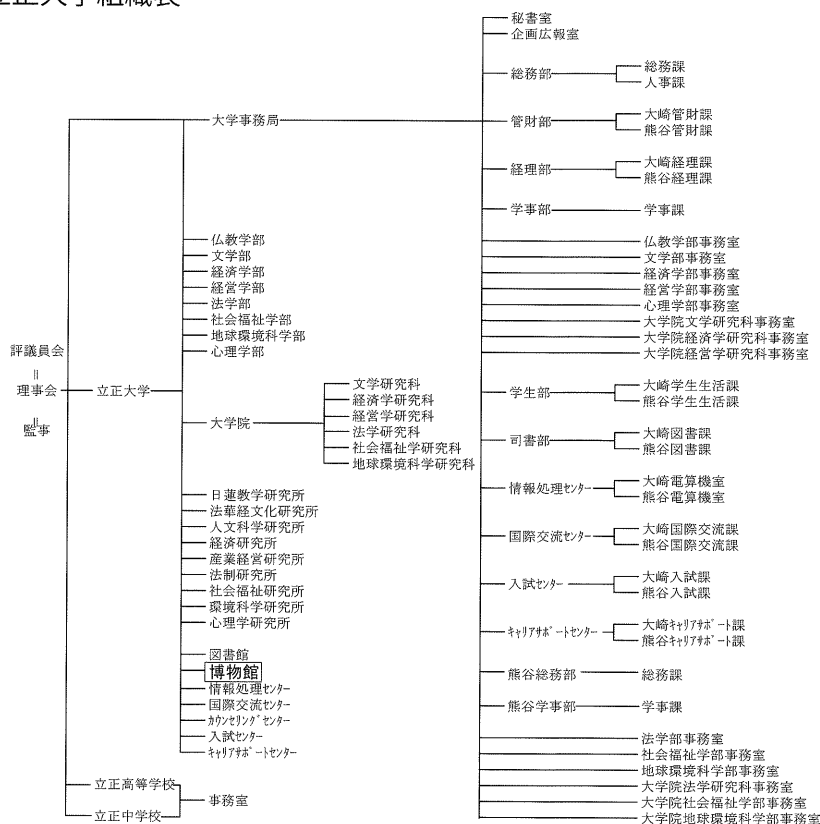
第1号委員
 池上 悟 (博物館長・文学部教授)

第2号委員
 内田勇樹 (専門職員・非常勤嘱託)

第3号委員
 仲山佳秀
 (社会福祉学部長・社会福祉学部教授)

米林 伸
 (地球環境科学部長・地球環境科学部教授)

(2) 立正大学組織表



(3) 立正大学博物館規定

(設定)

第1条 立正大学学則第9条の規定に基づき、熊谷キャンパスに「立正大学博物館」（以下「博物館」という）を置く。

(目的)

第2条 博物館は歴史・芸術・民俗・産業・自然誌に関する学術的資料（以下「資料等」という）を収集、保管し、これを組織的に展示し、広く社会に公開するとともに、これらの調査研究を行うことによって大学における教育・研究の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 博物館は前条に規定する目的を達成するため、次の事業を行う。

- 一 資料等の収集、整理および保管
- 二 資料等の展示および公開
- 三 調査研究活動
- 四 調査研究成果の発表および出版
- 五 本学における博物館関係科目、その他関連授業科目の教育活動への協力
- 六 講演会、講習会および特別展示会の開催
- 七 その他必要な事業

(職員)

第4条 博物館に次の職員を置く。

- 一 館長
- 二 専門職員

(館長)

第5条 博物館に館長を置く。

- 2 館長は博物館を代表し、博物館の教務を総括する。

3 館長は全学協議会に諮り、本学専任教職員より学長が任命する。

4 館長の任期は3年とし、再任を妨げない。

5 館長が欠けたときは、補充しなければならない。この場合において、その任期は前任者の残任期間とする。

(専門職員)

第6条 専門職員は第3条に定める事業に従事するとともに、これに関連する業務を行う。

2 専門職員は博物館学芸員の資格を有するものとし、任期は3年とする。

(運営委員会)

第7条 博物館の管理運営に必要な事項を審議するため、博物館運営委員会（以下「委員会」という）を置く。

(委員会・構成)

第8条 委員会は、次の者を以って構成し、学長が委嘱する。

- 一 館長
- 二 専門委員
- 三 学部長から2名
- 四 研究所長から2名
- 五 博物館学芸員関係学識経験者から1名
- 六 考古学および文化史関係学識経験者から1名
- 七 自然誌関係学識経験者から1名

2 館長の推薦により、前項に定める委員会のほか、学識経験者若干名を加えることができる。学識経験者委員の委嘱は学長が行う。

3 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者に出席を求め、意見を聴く

ことができる。

(委員の任期)

第9条 前条第三号乃至六号および第2条の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 任期中に欠員が生じた場合は、委員を補充し、任期は前任者の残任期間とする。

(委員会の運営)

第10条 委員会は、館長が召集し、議長となる。

2 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数の同意をもって決する。

(委員会の審議事項)

第11条 委員会は、以下の事項について審議する。

一 資料等の収集、整理、保管、展示

および公開に関する事項

二 博物館の管理運営に関する事項

三 調査研究活動ならびにその成果の発表および出版に関する事項

四 博物館関係科目、その他関連授業科目の教育活動への協力に関する事項

五 博物館の予算・決算に関する事項

六 その他必要な事業に関する事項

(細則)

第12条 この規定に定めるもののほか、管理運営上必要な事項は、立正大学博物館規定細則によるものとする。2年とし、再任を妨げない。

(規程の改廃)

第13条 本規程の改廃は委員会および全学協議会の議を経るものとする。

附則

この規程は平成14年4月1日から施行する。

(4) 立正大学博物館細則

(趣旨)

第1条 この細則は立正大学博物館規程第12条の規定に基づき、同規程の施行について必要な事項を定めるものとする。

(開館日)

第2条 立正大学博物館（以下「博物館」という）の開館日は原則として立正大学学則第31条に定める休業日および火曜日を除く日とする。

(開館時間)

第3条 博物館の開館時間は、午前10時から午後4時までとする。

(入館手続)

第4条 博物館に入館する者は、所定の手続きをとらなければならない。

2 館長は博物館における教育および研究活動に支障があると認める場合は、入館を許可しないことがある。

(入館料)

第5条 博物館の入館料は原則として無料とする。

(入館者の義務)

第6条 入館者は博物館の施設・資料等を毀損し、または滅失したときは、直ちに館長に届け出て、その指示に従わ

なければならない。

- 2 入館者は前項の規定にある損害に対し損害賠償の義務を負わなければならない。ただし、事情によりこれを免除または軽減することができる。

(資料等の利用)

第7条 博物館内において撮影、実測、特殊観察、複製製作の目的で資料等の利用を希望する者は、館内利用許可申請書(様式2)を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

- 2 資料の所蔵者または寄託者が学外にある場合は、当該資料の利用を希望する者は事前に所蔵者または寄託者の承認を受け、それを証明する書類を利用許可申請書に添付しなければならない。

- 3 利用を許可された者は次に掲げる事項を遵守しなければならない。

一 利用に際しては博物館の専門職員の支持に従うこと。

二 利用による成果を刊行物、映画フィルム、ビデオテープ等に発表したときは、本博物館の名称およびその所蔵、または保管である旨を明記すること。

三 利用により生じた著作物等は利用許可申請書に記載の目的以外には使用しないこと。

四 館長は、第1項の利用許可申請書の提出があったときは、審査のうえ館内利用許可書(様式2)を交付する。ただし、重要文化財およびこれに準ずる資料等については、立正大学博物館運営委員会(以下「委員会」という)

の議を経なければならない。なお、館長は管理上支障があると判断した場合は、許可を取り消すことができる。

- 五 本条第1項による利用許可を受けた者が、当該資料を毀損した場合は、損害賠償の義務を負わなければならない。

(資料等の利用料金)

第8条 前条第3項により許可を受けた者は、別に定める利用料金を速やかに経理部に納入しなければならない。

- 2 館長は、前項の定めにかかわらず次の各号のいずれかに該当する場合は、利用料金を全額免除することができる。

一 各種教育機関や国または地方公共団体および公益法人が行う教育、学術および文化等に関する事業

二 博物館法(昭和26年法律第285号)に規定する博物館等の行う事業

三 学術研究

四 前号のほか、館長が全額免除すべき特別の理由があると認めたとき

- 3 前項の定めにより利用料金を全額免除された者は、利用により生じた著作物1部以上を無償で博物館に納入しなければならない。ただし、館長が認めたときはこの限りでない。

(資料等の貸出)

第9条 資料などの貸出を受けようとする者は、館外貸出許可申請書(様式3)を館長に提出し、その許可を受けな

- なければならない。
- 2 館長は前項の貸出許可申請書（様式 4）の提出があったときは、審査のうえ館外貸出許可書（様式 4）を交付する。ただし、重要文化財およびこれに準ずる資料等については、委員会の議を経て決定しなければならない。
- 3 館長は管理上支障があると認められる場合は、前項の許可を取り消すことができる。
- 4 本条第 1 項による許可を受けた者は、貸出期間中に当該資料等を毀損または滅失した場合は、損害賠償の義務を負わなければならない。
- （資料等の貸出料金）
- 第10条 前条第 2 項による許可を受けた者は、別に定める利用料金を速やかに経理部に納入するとともに、貸出期間中および貸出に伴うすべての経費を負担するものとする。
- 2 前項の定めにかかわらず、第 8 条第 2 項一号、二号および四号のいずれかに該当する場合は、貸出料金を全額免除する。
- 3 前項の定めにより貸出利用料金を全額免除された者は、利用により生じた著作物を 1 部以上、博物館に寄贈しなければならない。ただし、館長が特に認めたときはこの限りでない。
- （寄託）
- 第11条 資料等を寄贈・寄託しようとする者は、その品目、点数、期間等を寄贈申請書（様式 5）寄託申込書（様式 6）に記入のうえ、館長に提出するものとする。
- 2 館長は前項に定める寄贈・寄託の申出があった時は、委員会の審議に附し、受入の承認がなされたものについて、学長に意見書を提出しなければならない。
- 3 館長は寄贈・寄託を受けた時は、寄贈・寄託者に対して該当資料の受領証（様式 7）・受託証（様式 8）を交付するものとする。
- 4 館長は、寄託を受けた資料等について十分な注意を持って保管しなければならない。
- （細則の改廃）
- 第12条 本細則の改廃は、委員会および全学協議会の議を経るものとする。
- （附則）
- 1 この細則に定めのない事項については、館長がその都度、委員会に諮り処理する。
- 2 この細則は平成 14 年 4 月 1 日から施行する。
- 3 この細則は平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

様式 1

受付番号				
立正大学博物館資料				
館内利用許可申請書				
立正大学博物館長 様				
年 月 日				
住 所				
団 体 名				
代表者氏名				
電 話				
下記のとおり立正大学博物館資料の館内利用をしたいので申請します。				
記				
利 用 目 的				
利 用 資 料	資 料 番 号	資 料 名	数 量	備 考
利 用 区 分	閲覧・模写・模造・撮影・その他 ()			
利 用 期 間	年 月 日 () から 年 月 日 () まで			
利 用 責 任 者				
※ 寄託資料については寄託者の承認書を、借用資料については貸与者の承認書を、著作権者がある資料については著作権者の承認書を添付してください。				

様式 2

第 号				
立正大学博物館資料				
館内利用許可書				
立正大学博物館長 印				
年 月 日				
様				
下記のとおり立正大学博物館資料の館内利用を許可します。				
記				
利 用 目 的				
利 用 資 料	資 料 番 号	資 料 名	数 量	備 考
利 用 区 分	閲覧・模写・模造・撮影・その他 ()			
利 用 期 間	年 月 日 () から 年 月 日 () まで			
利 用 責 任 者				
※ この許可書は、立正大学博物館資料館内利用の際に提示し、利用期間中携帯してください。				

様式 3

受付番号

立正大学博物館資料
館外貸出許可申請書

立正大学博物館長 様

年 月 日

住 所
団 体 名
代表者氏名
電 話

利用目的

貸出資料

貸出期間

利用場所

利用方法

輸送方法

取扱責任者

資料番号	資料名	数量	備考

年 月 日 () から 年 月 日 () まで

※ 寄託資料については寄託者の承認書を、著作権者がある資料については著作権者の承認書を添付してください。

様式 4

第 号

立正大学博物館資料
館外貸出許可書

様

年 月 日

立正大学博物館長 印

利用目的

貸出資料

貸出期間

利用場所

利用方法

輸送方法

取扱責任者

資料番号	資料名	数量	備考

年 月 日 () から 年 月 日 () まで

※ この許可書は、立正大学博物館資料の館外貸出しを受ける際に提示してください。

様式 5

受付番号

博物館資料寄贈申請書

立正大学博物館長 様

年 月 日

申請者 住所 氏名 電話 印

下記のとおり博物館資料として寄贈したいので申請します。

資 料 名	数 量	備 考

様式 6

受付番号

博物館資料寄託申請書

立正大学博物館長 様

年 月 日

申請者 住所 氏名 電話 印

下記のとおり博物館資料として寄託したいので申請します。

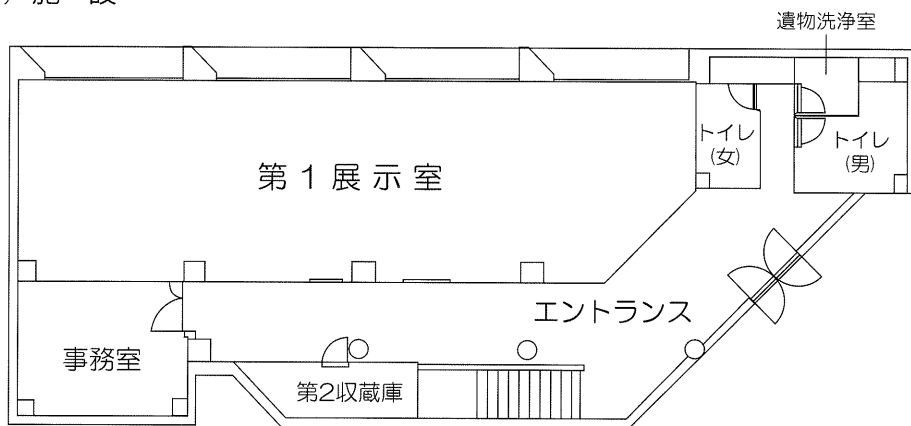
寄 託 期 間	年 月 日 () から	年 月 日 () まで	資 料 名	数 量	備 考
寄 託 資 料					

様式 9

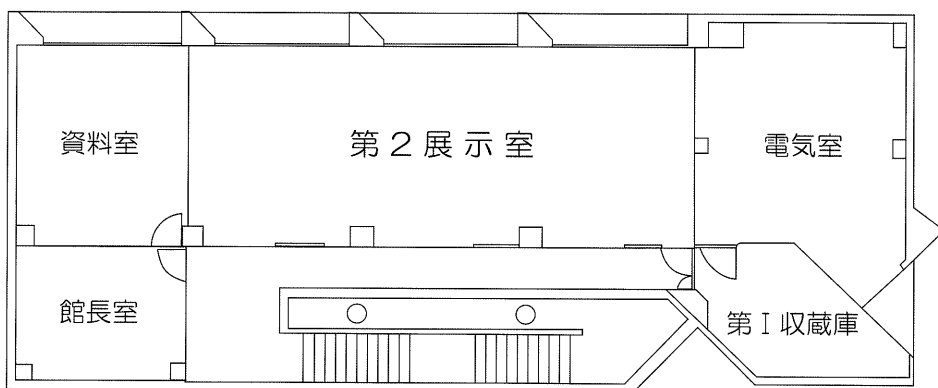
博物館資料借用書			
様		年 月 日	
		立正大学博物館長	印
下記のとおり博物館資料として借用しました。			
記			
使用期間	平成 年 月 日 () から平成 年 月 日 () まで		
借用理由			
借用資料	資料名	数量	備考
取扱担当者			

※ この借用書は、博物館資料の返却時に返していただきますので、大切に保管してください。

(5) 施 設



1階 平面図



2階 平面図

- 建物
所在地・・・埼玉県熊谷市万吉 1700
建築面積・・・376.8 m²
構造・・・鉄筋コンクリート造 2階建

- 各室面積一覧
(1階)
第1展示室・・・93.88 m²
事務室・・・17.10 m²
第2収蔵庫・・・3.22 m²
トイレ・・・11.01 m²
遺物洗浄室・・・2.26 m²
エントランス・・・45.64 m²

- (2階)
第2展示室・・・71.22 m²
館長室・・・16.98 m²
資料室・・・23.89 m²
第1収蔵庫・・・12.30 m²
電気室・・・39.00 m²

- 各室仕様
(第1展示室・事務室)
床・・・タイルカーペット敷
壁・・・ビニールクロス貼り
天井・・・ミネラートン

- (第2展示室)
床・・・タイルカーペット敷
壁・・・ビニールクロス貼り
天井・・・ミネラートン

- (館長室・資料室)
床・・・タイルカーペット敷
壁・・・ビニールクロス貼り
天井・・・ジブトーン

- 電気設備
受電設備・・・6.6KV
変圧器設備・・・電灯ー100KVA 動力ー80KVA
照明設備・・・展示室ーハロゲンランプ使用
館長室・事務室・資料室ー蛍光灯使用

- 防犯・防災設備
防犯設備・・・各室熱センサー取付、非常通報設備
ITV設備・・・CCDカメラ4台、展示室等監視
自動火災報知設備・・・P型1級5回線
消化設備・・・粉末消火器9台

- 空調設備
空調機・・・空冷式、パッケージエアコン(個別)

- 給排水設備
給水設備・・・市水道使用
給湯設備・・・貯湯式電気湯沸器

Ⅱ. 事業報告

(1) 開館日数・入館者数

平成 23 年 4 月 1 日（金）～平成 24 年 3 月 31 日（土）までの 211 日間を開館した。総来館者数は 1,504 名でした。

内訳は一般 760 名、大学生 269 名、教職員 17 名、高校生以下 161 名、オープンキャンパス 297 名である。

団体見学は、熊谷市初夏の文化財巡り、立正中・高父兄会、明和高等学校、大井高等学校、彩の国いきがい大学、太平ツアーがあり、その他に社会福祉学部・法学部のゼミ見学が 4 件あった。

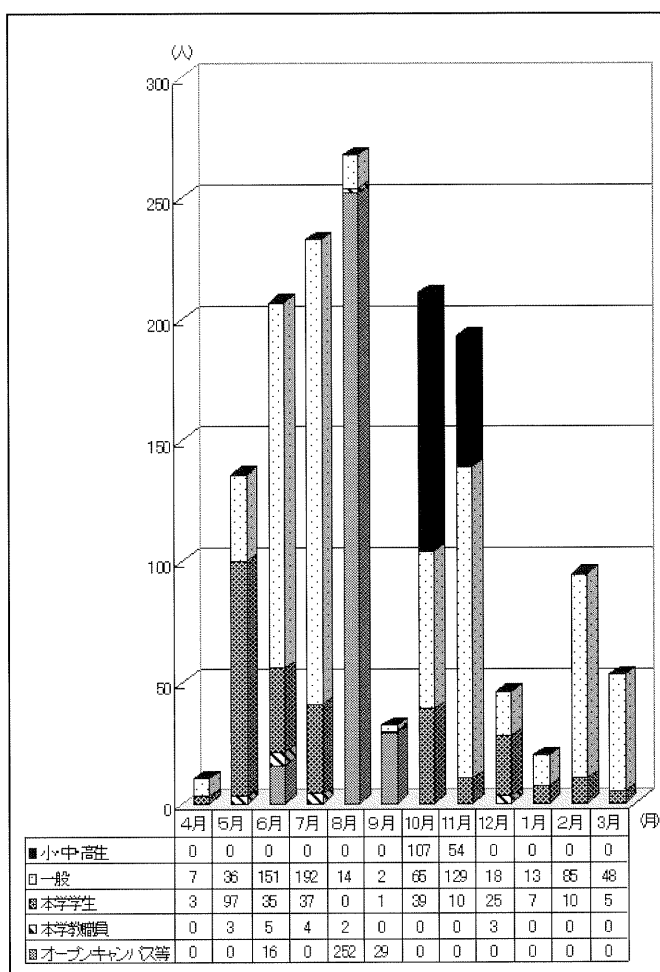


表 平成 23 年度月別入館者数

(2) 出版

本年度は、以下の出版物を刊行した。

- ・立正大学博物館報『万吉だより』第 15 号
- ・立正大学博物館報『万吉だより』第 16 号

- ・立正大学博物館年報 第 9 号
- ・第 8 回企画展『石器のいろは～収蔵資料の紹介～』展示図録

(3) 資料活用

当館所蔵の資料を以下の博物館に貸出した。

- ・平成 23 年 11 月 30 日（水）～平成 24 年 2 月 14 日（火）

横浜市歴史博物館

吉田格コレクション 4 点（骨角器）

- ・平成 24 年 3 月 30 日（金）

熊谷市立図書館美術・郷土展示室

熊谷校地内写真 10 点

- ・平成 24 年 3 月 9 日（金）～5 月 31 日（木）

町田市立博物館

本町田遺跡出土石器 75 点

(4) 常設展示・企画特別展示

1. 常設展示

ー第1展示室（1F）ー

眞鍋孝志氏（日本古鐘研究会会長）より寄贈されたアジア諸地域の梵音具を中心とする撫石庵コレクションおよび立正大学考古学研究室が1958年～1980年にかけて文部省（現文部科学省）の科学研究費の交付などを受けて実施した「古代窯業の考古学的研究」によって発掘された資料を中心に展示されている。

この他に、旧石器時代の資料として北海道白滝遺跡・報徳遺跡、神奈川県朝日遺跡の出土品が展示され、縄文時代では埼玉県石神貝塚、古墳時代では埼玉県野原古墳群の出土資料を展示している。

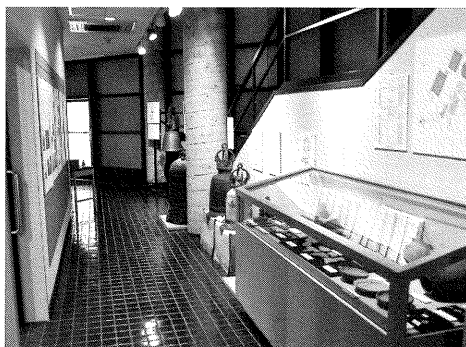
また、熊谷キャンパスにおける施設の新築などに際して、法（文化財保護法）によって定め

られた遺跡の発掘調査を実施しており、その折、発掘された資料を展示している。

古代から近世にかけては、千葉県九十九坊廃寺・長熊廃寺跡出土品、神奈川県下出土火葬骨蔵器、板碑、東京都増上寺徳川將軍家関係墳墓出土の一字一石経などを展示している。

撫石庵コレクションは、日本をはじめ、朝鮮半島・中国・タイ・ミャンマー・スリランカなどアジア各地の梵音具（鐘・鐸）のほか、金銅釈迦如来立像などが展示されている。

とくに、伝檀原市出土の梵鐘は、わが国の初現期の梵鐘として10指に入るもので、極めて貴重な資料である。この伝檀原市出土鐘を復元した鐘が新たに寄贈された。



エントランス展示状況



第1展示室東側展示状況



第1展示室西側展示状況



新久窯跡展示状況

－第2展示室（2F）－

吉田格コレクション、樺太出土資料、ネパール・ティラウラコット出土資料を展示している。

吉田格コレクションは、吉田 格氏（立正大学専門部地歴科・昭和16(1941)年卒・平成18年没）寄贈のコレクションである。吉田氏は縄文文化研究者として著名であり、とくに縄文時代早期の花輪台式土器、後期の称名寺式土器は吉田氏によって設定された型式標準資料として学界に周知されている。

とくに称名寺貝塚出土の土器・石器・骨角器および骨角器原料（鹿角）は縄文文化の研究上、きわめて重要な資料である。

また、本草学者・伊藤圭介（日本最初の理学博士）蒐集の石器は『日本産物誌』明治9(1876)年に収められているものであり、嘉永5(1852)年の箱書きを持つ収蔵箱に収納されている石器とともに、極めて貴重な資料として吉田コレクションに収められている。

樺太出土資料は、久保常晴氏（元本学名誉教授）寄贈のコレクションで、同氏が1930年代に樺太の地を踏査された際に収集されたものである。樺太出土資料は、現在、日本各地に所蔵されているが、その一つとして立正大学所蔵品の存在が知られている。

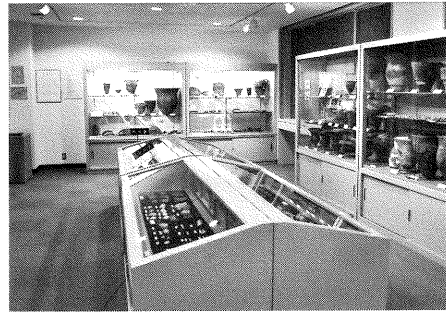
ネパール・ティラウラコット出土資料群は、1967年～1977年にかけて、立正大学がネパール王国に派遣した発掘調査団によって発掘された資料であり、とくに日・ネ親善のためネパール考古局より寄贈された資料である。

ティラウラコット遺跡は、釈尊出家の故城ーカピラ城跡の有力な比定遺跡として世界の学界に知られていた。その地を10年間にわたって発掘調査した結果、カピラ城跡の最有力遺跡として注目されるにいたっている。

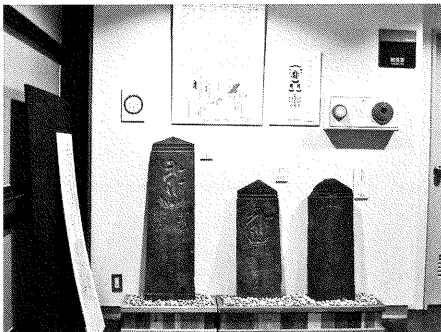
東西約400m、南北約480mの方形の城跡内に7つの遺丘が存在し、そのうちの2箇所を発掘して得られた資料である。



第2展示室西側展示状況



第2展示室東側展示状況



2階展示室入口石板展示状況



第1展示室東側展示状況

2. 企画・特別展示

第8回企画展

「石器のいろは～収蔵資料の紹介～」

◆期間：平成23年7月4日（月）～8月6日（土）

◆内容：立正大学博物館では、常設展示において吉田格コレクションや久保常晴樺太コレクション、立正大学考古学研究室収蔵資料などで石器を展示しています。今回の企画展では、この石器について収蔵資料と合わせて紹介しました。

収蔵資料からは、東京都町田市に所在する本町田遺跡、埼玉県川口市に所在する石神貝塚、東京都品川区馬込に所在する馬込貝塚、東京都大田区久が原採集などの石器を展示しました。

本町田遺跡は、東京都町田市本町田に所在し、昭和42年7月～昭和43年4月に立正大学考古学研究室によって調査され、縄文時代早期～中期、弥生時代中期、奈良・平安時代集落跡が確認されました。現在遺跡公園として東京都の指定史跡として保存されています。本町田遺跡出土品からは、石鏃16点、石匙5点、打製石斧1点、浮子1点、石皿2点を展示しました。

石神貝塚は、昭和29年～30年にB貝塚が立正大学考古会と川口市教育委員会によって調査されました。貝塚は標高約20mの台地上から斜面にかけて立地する、縄文時代後期～晩期の小貝塚で、打製石斧10点、磨製石斧1点、石剣3点、石皿1点を展示しました。なお出土した土器などの一部は常設展示しています。

その他に、吉田格コレクションの収蔵資料より、神奈川県下組貝塚より打製石斧1点、神



第7回企画展 チラシ

奈川県杉田貝塚より打製石斧1点を、また収蔵資料から東京都久が原出土打製石斧22点、東京都馬込貝塚出土打製石斧2点、茨城県前浦遺跡出土石剣1点、静岡県自由峠付近採集黒曜石原石、香川県善通寺市採集サヌカイト原石、北海道白滝遺跡採集黒曜石、石核・石刃などを展示しました。

また、7月23日（土）には、記念講演会として、久保田正寿氏（立正大学非常勤講師）に「石器製作と人々の思い～実験考古学で明らかにすること～」と題して、熊谷市中央公民館において講演を行って頂きました。

そして、9月16日（金）～10月15日（土）にかけて、大崎校舎5号館1階ロビーにおいてパネルによる移動展示を行いました。

（学芸員 内田勇樹）

(5) 調査・研究

Ⅰ. 近世石造物資料調査

平成 23 年度も、前年度に引き続き「博物館実習」の資料収集実習の一環として熊谷市内における近世墓石の調査を実施した。本年度は、熊谷市北部の奈良地区に所在する真言宗の妙音寺の境内墓地を対象として資料の収集を行った。

妙音寺の境内墓地は本堂の西側に造営されており、新墓地は北側へ展開している。既に墓地整理が行われ各家の墓所には花崗岩製の優良な家墓が造立されている。墓地整理にともなって無縁となった墓標は、70 基ほどが本堂横の小堂側に整列して配置されている。

墓地の個別区画は比較的広く、江戸期の墓石も各家の墓所中に整理して配置されている。現代に至る墓石総数は 700 基を超えるものであるが、このうち江戸期の紀年銘が明確に確認された資料は 403 基であった。

妙音寺墓地における江戸時代の墓石は、歴代住持墓や一部特定のものを除き一般的に小形であり、基本的には安山岩を用いた高さ 1～2 尺 (30～60 cm) を基本とするものである。

これを型式別に見ると、A・尖頂舟形墓標、B・尖頂方形墓標、C・円頂方形墓標、D・平頂方形墓標、E・円頂方柱墓標、F・平頂方柱墓標、G・突頂方形墓標、H・突頂方柱墓標、I・笠付方柱墓標、J・舟形仏像墓標に区分することができる。

A・尖頂舟形墓標は、寛文元 (1661) 年を最古として展開するものであり、宝暦 6 (1756) 年までの 95 年間に 15 基の造立を確認することができる。

この妙音墓地における A 類以外の初期墓標としては、背面を丸く舟底状に仕上げ、正面に

地蔵・観音像を浮き彫りする J 類の舟形仏像類が造立されている。J 類は寛文 9 (1669) 年を最古として、宝暦 8 (1758) 年までの 89 年間に 41 基が造立されている。

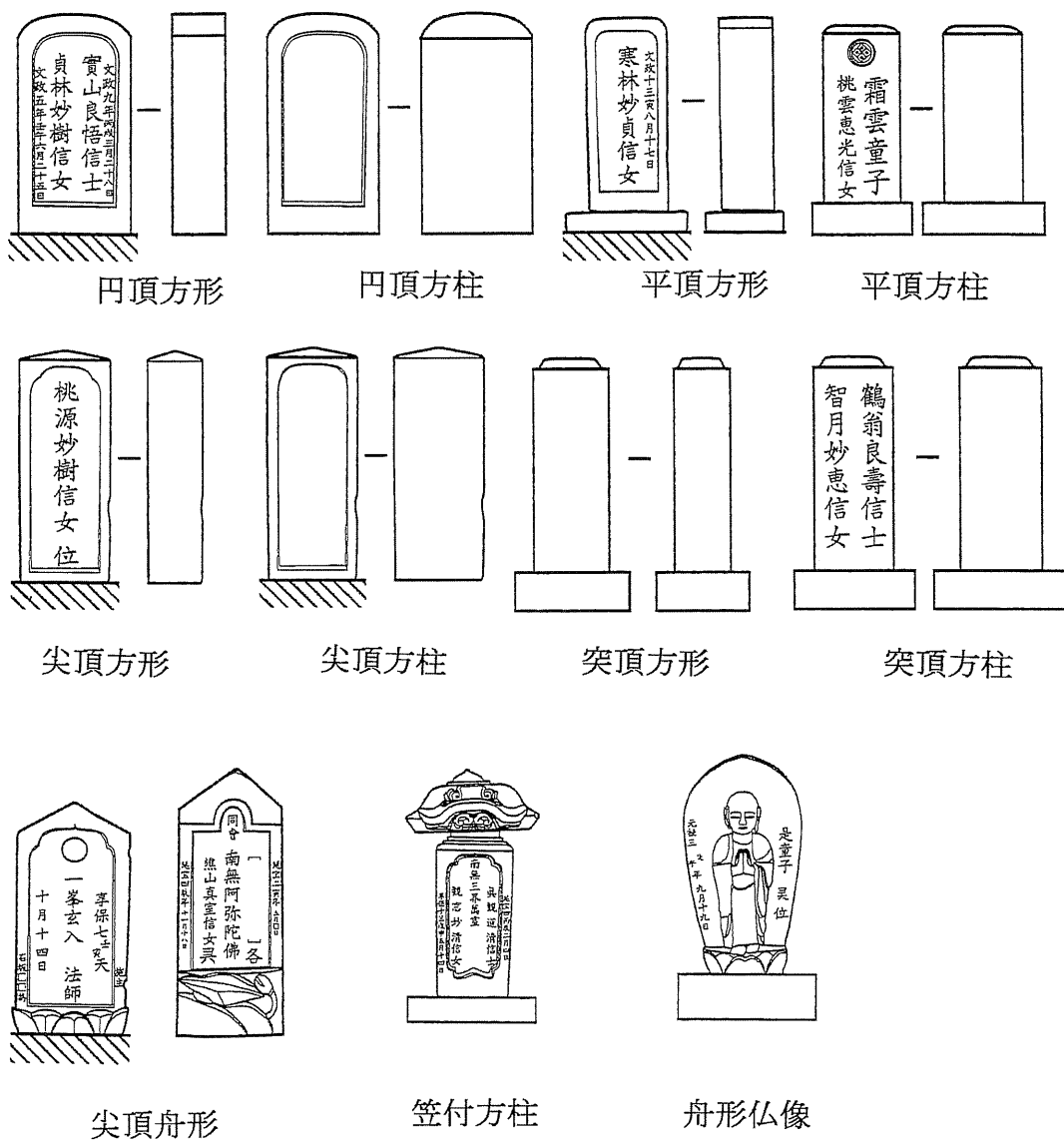
A 類・J 類ともに頂部の尖った、背面を舟底状に仕上げる点において共通しており、他型式が主体を占める 18 世紀中葉に終焉を迎えている。

18 世紀の前半、1720 年代以降 1820 年代までの 100 年間に主体を占めるのは、墓標本体の幅に対して厚さが劣る、横断面が長方形を呈する方形類である。

妙音寺墓地における方形類墓標は頂部の成形の違いにより細別できるが、妙音寺墓地においては、尖頂・円頂・平頂・突頂の各類が確認できる。C・円頂方形墓標は、貞享 2 (1685) 年から安政 5 (1858) 年に至る 173 年間に総数 132 基の造立を確認できる。132 基は妙音寺墓地における江戸時代墓標の 33% を占めるものであり、江戸時代を代表する墓標となっている。132 基中のうち前半期に属する 30 基は、A・尖頂舟形墓標と同じく背面を舟形に丸く仕上げており、前代の要素を取り入れた新形式墓標の展開が確認できる。

A および C 類墓標の中間に位置するのが、B・尖頂方形墓標である。延宝 4 (1676) 年から明和 7 (1770) 年に造立された 26 基のほとんどは背面を舟形に丸く仕上げるものであり、墓標表面の造作を変えた型式の現出と理解できる。

D・平頂方形墓標は、熊谷地区に特徴的な墓標型式である。平成 22 年度に資料調査を実施した曹洞宗・常楽寺では 1720～1870 年代



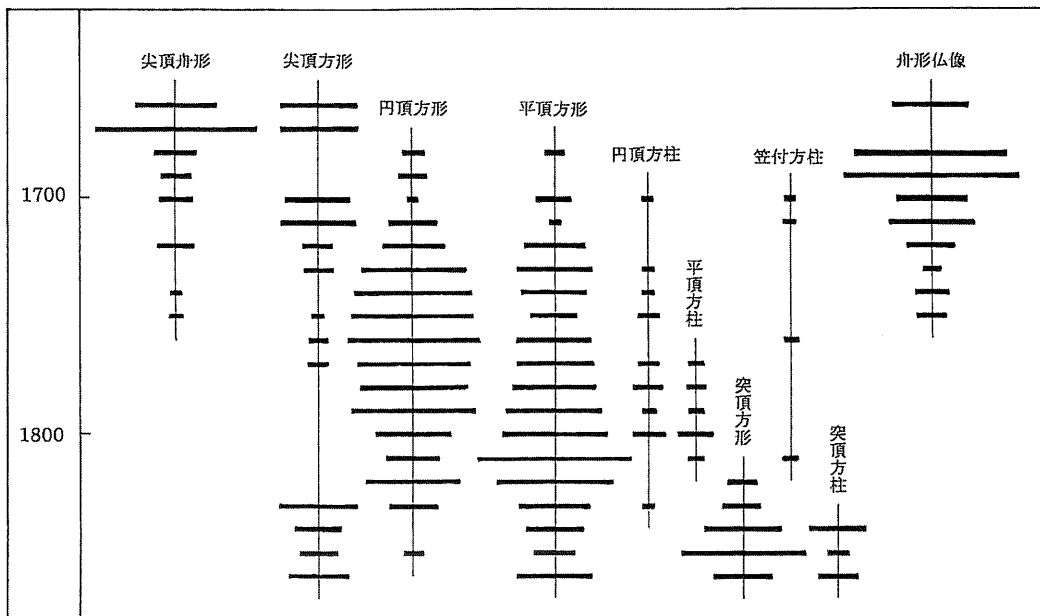
第1図 墓標型式

にかけての150年間に主体を占めた墓標型式であり、真言宗・長慶寺では1740～1860年代にかけての120年間の主体型式である。

D類墓標は、頂部が丸く仕上げられたC類の中央部が平坦となったものである。貞享元(1684)年から慶應3(1867)年に至る間に117基の造立を確認でき、1720～1790年代まで

はC類を補完する主体墓標型式となっており、C・D類を合わせた総数は墓標総数の62%を占めている。

一般的に幕末にかけて現出するのが、墓標本体の幅に対して厚さが匹敵する、横断面が正方形に近い方柱類である。妙音寺墓地に確認できる方柱類は、頂部の成形の違いにより、E・



	尖頂 舟形	尖頂 方形	円頂 方形	平頂 方形	円頂 方柱	平頂 方柱	突頂 方形	突頂 方柱	笠付 方柱	舟形 仏像	
1660	1	1								1	3
1670	2	1									3
1680	2		1	1						7	11
1690	1		1							6	8
1700	3	6	1	3	1				1	7	22
1710		6	4	1					1	7	19
1720	3	2	5	5						4	19
1730		3	12	9	1					2	27
1740	1		11	6	1					3	22
1750	2	2	18	8	3					4	37
1760		3	20	12					1		36
1770		2	11	8	2	1					24
1780			13	10	3	2					28
1790			16	12	1	2					31
1800			4	6	2	2					14
1810			4	12		1			1		18
1820			4	5			1				10
1830		10	6	9	1		5				31
1840		3		4			5	4			16
1850		2	1	2			6	1			12
1860		3		4			3	2			12
	15	44	132	117	15	8	20	7	4	41	403

第1表 妙音寺墓標集成表

円頂方柱墓標、F・平頂方柱墓標、G・突頂方形墓標、H・突頂方柱墓標、I・笠付方柱墓標の存在を確認することができる。

このうち性格の異なる墓標はI類であり、年代変遷に従った形態の違いではなく、造立

階層の違いとして認識される。E類は1700～1830年代にかけて15基、F類は1770～1810年代にかけて8基の造立が確認できるが、それぞれC・D類の補完的位置を占めるに過ぎないが、石材の方形と方柱の違いは相対的

な上位の階層の存在を暗示するものと理解されよう。

幕末に僅かに存在を顕示する方柱類はH類である。天保12(1841)年から慶應4(1868)年にかけて7基が相応の位置を占めて造立されている。この時期に主体を占めた墓標は、G・突頂方形墓標である・1820～1860年代にかけて20基が造立されており、方形類としては特異な様相を示している。この型式の墓標は他地域に殆ど類例の知られないものであり、平成22年に調査した2寺院墓地においても同時期の存在が確認できることからすれば、熊谷地区墓標の特徴の一つとして認識できるものである。

尖頂舟形墓標から方形類墓標、更に方柱類墓標への変遷は関東の墓地における墓標変遷の基本であるが、それぞれに若干の様相の違いを具現するところである。

【連弁尖頂舟形墓標】

この妙音寺墓地においては、ある特徴を有する尖頂舟形墓標の存在を顕著に確認できる。尖頂舟形墓標の基本形は、①尖った頂部、②上部の半円形の割り込み、③正面の枠内を彫り窪め、④背面を舟底状に成形し、⑤基礎部には陽刻蓮華文を表現している。

妙音寺墓地において確認できる特徴ある尖頂舟形墓標は、⑤の陽刻蓮華文に代わって、⑥3弁の連弁を表現するものである。「連弁尖頂舟形墓標」と呼称し得るものであり、3弁の間に2個の間弁を入れる様相が基本形となっている。①・②・③・④の尖頂舟形墓標の基本的要素に⑥の要素が付加されたA類連弁尖頂舟形墓標は、寛文元(1661)年、から宝永9(1709)年の間に5基の存在を確認できる。

また頂部が尖るのみとなった①・③・④

に⑥の要素が付加されたB類連弁尖頂舟形墓標は、延宝7(1679)年を最古として延享2(1745)年に至る間に、9基が造立されている。

さらに頂部が平らとなり③・④に⑥の要素が付加されたC類連弁平頂舟形墓標は、宝永2(1705)年に現出して元文元(1736)年に至る32年間に3基が確認できるのみである。これら3類の変遷はA類からB類に変遷し、その移行期にC類が造立されたものと判断できる。

この変形式としての連弁尖頂舟形墓標に対して尖頂舟形墓標の基本形は、A類連弁尖頂舟形墓標に15年遅れた延宝4(1676)年を確認最古とする。以後、享保10(1725)年に至る50年間に9基の存在を確認できるが、変形類も多い。延宝4(1676)年例は②の要素は二重の割り込みに変化しており、元禄12(1699)年例は⑤の要素を欠落させて基礎部を無文としている。享保6(1721)年例も無文例であるが、幅を狭めた変形例となっている。宝永7(1710)年の複式型式も無文であり、享保6(1721)年例は②の割り込み要素を欠落させており、B類連弁尖頂舟形墓標との関連が窺える。

この妙音寺墓地に確認できる連弁尖頂舟形墓標は、熊谷地区の多くの寺院墓地で確認できる。現状で最多数を確認できるのは天台宗・常光院墓地であり、A類連弁尖頂舟形墓標4基、B類連弁尖頂舟形墓標30基、C類連弁平頂舟形墓標は9基を数える。

現状では、A類連弁尖頂舟形墓標の出現は、妙音寺墓地における寛文元(1661)年を遡及しない。類例は広く関東各地の墓地に確認できるものの、熊谷地区ほど集中するところは認められない。江戸時代の中山道・熊谷宿における顕著な石工活動の結果と位置づけておきたい。

(博物館館長・池上 悟)



第 2 図 蓮弁尖頂舟形墓標墓標



尖頂舟形墓標



尖頂方形墓標



尖頂方柱墓標



平頂方形墓標



平頂方柱墓標

妙音寺墓地における墓標分類①



円頂方形墓標



円頂方柱墓標



突頂方柱墓標



舟形仏像類

妙音寺墓地における墓標分類②

(6) 教育 普及

1. 館務実習

平成 23 年度の館務実習を下記の日程で延 7 日間行った。野外実習を館長池上悟・学芸員内田勇樹で行い、館内実習は、文化史講演を市川修氏（埼玉県立歴史と民俗の博物館）に、刀の取扱いを田嶋和久氏（文学部准教授）に、それ

以外の実習を学芸員内田勇樹が行った。

実習生：7 名（文学部史学科 4 名、地球環境科学部環境システム学科 1 名、大学院文学研究科史学専攻 2 名）

（実習内容）

▼ 6 月 29 日（水）

野外実習事前講義

館長池上悟による野外実習の事前講義

▼ 7 月 10・17・24 日（日）

野外実習（熊谷市上奈良 2770 妙音寺にて）
3 回のうち 1 回の出席。

▼ 8 月 22 日（月）～8 月 26 日（金）

館務実習

・ 8 月 22 日（月）

・ 午前；文化史講義（埼玉県立歴史と民俗の博物館 市川修氏）

・ 午後；刀の取扱（文学部社会学科 田嶋和久先生）

・ 8 月 23 日（火）

資料の取扱（梱包実習）

・ 8 月 24 日（水）

資料の取扱（写真撮影）

・ 8 月 25 日（木）

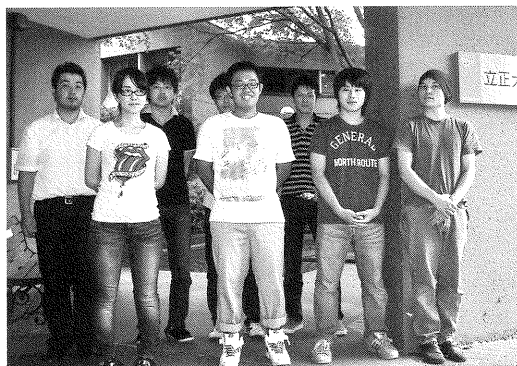
資料の取扱（資料台帳作成）

・ 8 月 26 日（金）

資料の取扱（拓本・裏打）



梱包作業の様子



平成 23 年度館務実習生

2. 土器焼き

昨年度に引き続き、平成 23 年度の文学部史学科考古学専攻の「考古学実習 6」（学部 4 年生対象）において、土器の焼成場所として熊谷キャンパスで行うということで、博物館が協力しました。

10 月 8 日（土）・9 日（日）の 2 日間に行き、焼成は野焼きと覆い焼きを行いました。担当講師の竹花宏之先生（文学部非常勤講師）の指導の下、8 日（土）に事前準備と覆い焼きを行い、9 日（日）に野焼きの土器焼成を行いました。参加実習生は考古学専攻生 8 名と大学院生 3 名で、それぞれ縄文時代の土器をモデルとし、大崎キャンパスにおいて各自製作しました。乾燥を十分に行ったのち、焼成 1 週間前に博物館に搬入し、日陰で天日干しを行い焼成しました。

8 日は、まず野焼きの火床を作りながら覆い焼きの準備を進め、覆い焼きのほうを最初に行

いました。資材は、藁・薪（校地内の枯れ枝など）を各軽トラック 1 台分用意し、薪とは別に赤松材を購入しました。

覆い焼きは、薪などの上に土器を並べ、その上から藁・萱などで全体を覆い、藁灰を全体に被せて 15 時間ほど燃焼させる方法です。

野焼きは、火床を製作し温度が上昇したところで土器を並べ、薪をくべながら焼成していきます。最後に藁・萱などで炭化物を焼き払い仕上げます。

火床を作っている間、火床の周辺に土器を並べ徐々に焼成していきます。

覆い焼きは、燃焼不足のため、焼成が不十分になりました。野焼きで焼成した土器は、火床に並べてから 2～3 時間で完成し、破損なども無く焼成できました。

覆い焼きが上手く焼成できず今後の課題として、次年度に活かしたいと思います。



野焼き焼成風景



考古学実習生

(7) 受贈資料

平成 23 年度に、高村弘毅氏、坂詰秀一氏より以下の資料の寄贈をして頂きました。今後整理を行って活用していきたいと思います。

1、高村弘毅氏寄贈資料

平成 23 年 5 月に、高村弘毅氏（前立正大学学長・立正大学名誉教授）より、自然関係の以下の資料を寄贈して頂きました。立正大学在任

中に沙漠を中心として、世界各地の自然環境を調査された折に入手された貴重な資料です。

・世界各地の沙漠の砂資料…37 点

Tarim 公路（塔中）

Taklimakan Daryaleui 大河沿

タクリマカン沙漠の砂

シルクロード敦煌の砂

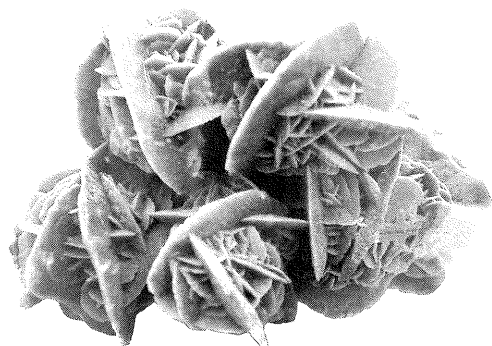
など

・岩石関係資料…41 点

沙漠のバラ・三陵石・侵食岩・三校石・風化石・砂岩・石灰岩・カルサイト・岩塩・など

・化石資料…4 点

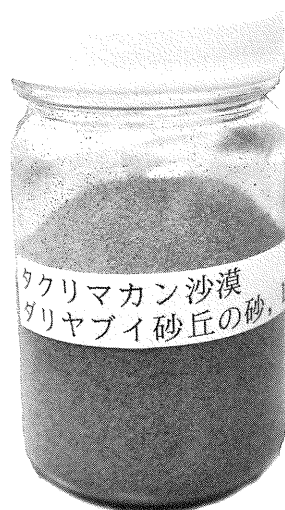
アンモナイト・三葉虫・有孔虫の酸化・珊瑚



沙漠のバラ



アンモナイト



タクリマカン沙漠ダリヤブイ砂丘の砂

2、坂詰秀一氏寄贈資料

平成 23 年 10 月に坂詰秀一博士（元立正大 学学長・前博物館館長）より、文献及び絵馬・

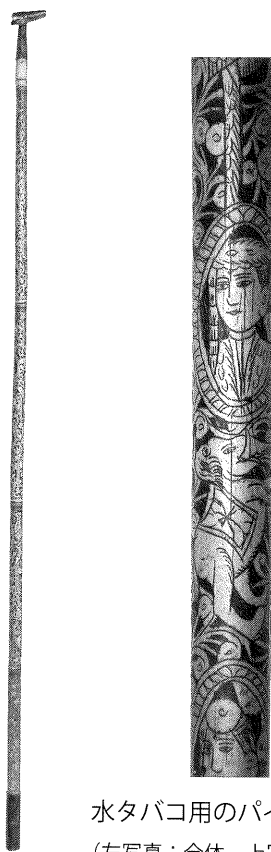
・文献資料…3,829 点
 雑 誌…1,509 冊
 報告書…33 冊
 図 録…138 冊
 単行本…13 冊
 年 報…9 冊
 会 報…21 冊
 紀 要…2 冊
 資料集…35 冊
 抜 刷…2,005 冊
 地名表…5 冊

要 覧…6 冊
 論 集…1 冊
 名 簿…5 冊
 文献目録…10 冊
 パンフレット…1 冊
 リーフレット…34 冊
 スクラップ…2 冊

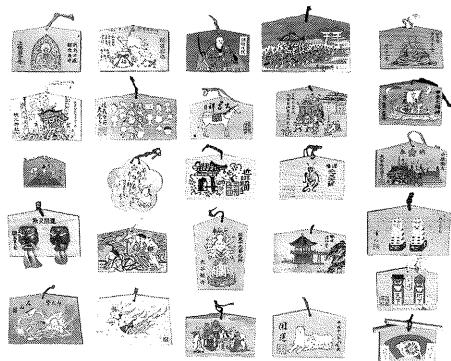
・写真資料…12 枚
 写 真…12 枚

・ネパール関連資料…13 点
 パイプ…1 点
 祭り（プジャ）の蓋…1 点
 灰皿…1 点
 木製品…4 点
 布製仏像画…1 点
 カバン…3 点
 トランクケース…2 点

・絵馬資料…155 点



水タバコ用のパイプ
 （左写真；全体 上写真；軸部拡大）



絵馬



祭り（プジャ）の蓋
 （ネパール、タライ（タウリハワー町）、ティラウラコットで採集、1977 年）

Ⅲ. 受贈図書目録(2011年4月～2012年3月)

〈青森県〉

青森市教育委員会

青森市埋蔵文化財調査報告書

第109集 市内遺跡発掘調査報告書 19

・青森市埋蔵文化財情報いにしえ青森 Vol.19

八戸市教育委員会

・掘り day はちのへ 第14号

・縄文の美「是川中居遺跡出土品図録」

・縄文至宝展

八戸市埋蔵文化財調査報告書

・第129集 田向冷水遺跡Ⅳ

・第130集 湯ノ沢遺跡Ⅱ

・第131集 八幡遺跡Ⅴ

・第132集 新井田古館遺跡・重地遺跡

・第133集 八戸城跡Ⅵ

・第134集 八戸市内遺跡発掘調査報告書 28

〈宮城県〉

東北大学資料館

・東北大学史料館紀要 第6号

・東北大学史料館だより 第14～15号

東北学院大学博物館

・東北学院大学博物館年報 2010年度

・モノが歴史を語りだす！—東北学院大学博物館常設展開設パンフレット—

東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館

・年報 2 2010年度

〈福島県〉

福島県文化財センター白河館

・まほろん通信 Vol.40～42

〈茨城県〉

取手市教育委員会

・第29回企画展 街道・水道・鉄路の旅

・第30回企画展 取手の戦国時代—永禄十二年の夏—

・第31回企画展 絵図・地図・写真で見る郷土の歩み

〈栃木県〉

財団法人とちぎ生涯学習文化財団 埋蔵文化センター

・(財)とちぎ生涯学習文化財団 埋蔵文化センター年報 第21号

・どき土器体

栃木県埋蔵文化財センターだより やまかいどう

・2011 2月

・2011 6月

・2011 11月

とちぎ発掘調査成果情報誌

・No.24～32

栃木県立しもつけ風土記の丘資料館

・第25回秋季特別展 ムラから見た奈良・平安時代

・栃木県立しもつけ風土記の丘資料館年報 第25号(平成22年度)

栃木県立なす風土記の丘資料館

・第19回企画展 那須と白河

〈群馬県〉

安中市学習の森 安中市ふるさと学習館(歴史博物館)

・ふるさとの至宝 安中市の文化財

高崎市観音塚考古資料館

・第23回企画展 輝ける大刀

〈埼玉県〉

朝霞市博物館

- ・朝霞市博物館資料目録Ⅶ
- ・朝霞市博物館研究紀要第 7 号
- ・第 26 回企画展 鷹狩りと朝霞

入間市博物館

- ・入間市博物館紀要第 9 号
- ・いるまタイムカプセル 市制施行 45 周年記念
- ・NEWS-ALIT 第 55 ～ 58 号

桶川市教育委員会

- ・平成 23 年度桶川市内遺跡発掘調査報告書
- ・後谷遺跡 重要文化財「埼玉県後谷遺跡出土品」図録
- ・ふじまう山遺跡 第 3 次発掘調査報告書

春日部市郷土資料館

- ・第 43 回夏季展示 幕末の春日部

加須市教育委員会

加須市埋蔵文化財調査報告書

- ・第 1 集 騎西城武家屋敷跡
- ・第 2 集 騎西城武家屋敷跡

神泉村遺跡調査会

神泉村遺跡調査会文化財調査報告書

- ・第 1 集 飛来遺跡発掘調査報告書－A～E 地点の調査－
- ・第 2 集 東山遺跡発掘調査報告書
- ・第 3 集 林遺跡発掘調査報告書
- ・第 4 集 池尻遺跡発掘調査報告書

神川町教育委員会

神川町埋蔵文化財調査報告

- ・第 3 集 中道遺跡第 13 地点
- ・第 4 集 中道遺跡第 19 地点

川口市立科学館

- ・平成 22 年度年報

川越市立博物館

- ・第 36 回企画展 名主奥貫友山と寛保 2 年の大水害

- ・博物館だより 第 62 ～ 64 号
- ・川越市立博物館収蔵文書目録（十二）
- ・第 35 回企画展 川越城―描かれた城絵図の世界― 川越城本丸御殿竣工記念

川越市教育委員会

- ・川越商工会議所関係文書目録Ⅰ 戦前編（明治 32 年～昭和 21 年）
- ・山田八幡神社所蔵（岩沢家）文書目録

行田市郷土博物館

- ・行田市郷土博物館報第 16 号（平成 21・22 年度）
- ・第 21 回テーマ展 忍藩主松平家と東照宮
- ・第 24 回企画展 天変地変「災害の日本史」
- ・第 25 回企画展 兜「武将のシンボル」
- ・特別展 石田光成と忍城水攻め

久喜市教育委員会

- ・久喜市栗橋町史 民俗Ⅲ

久喜市立郷土資料館

- ・第 1 回特別展 久喜市の名宝
- ・第 2 回特別展 中島撫山没後 100 年展

熊谷市教育委員会

- ・江南町史 自然編 3 地形・地質
- 熊谷市埋蔵文化財調査報告書
- ・第 8 集 円山遺跡
- ・第 9 集 前中西遺跡Ⅵ
- ・第 10 集 埼玉県指定史跡「塩古墳群」の調査
- ・第 11 集 西別府祭祀遺跡Ⅲ
- 熊谷市遺跡調査会
- ・瀬戸山遺跡・山ヶ谷戸遺跡

熊谷市立熊谷図書館

- ・平成 23 年度春の絵画展 近代熊谷絵画の先駆者たち～晴湖・恒友・喜一～
- ・平成 23 年度秋の企画展 斎藤氏と聖天堂展

埼玉県立川の博物館

- ・かわはく No. 39 ～ 41
- ・紀要 11 号

- ・平成 23 年度特別展葉 秩父のおごっつおう
- ・平成 23 年度夏季企画展 ひやっつとコオリ

埼玉県立歴史と民俗の博物館

- ・埼玉県立歴史と民俗の博物館紀要第 5 ～ 6 号
- ・THE A MUSEUM 埼玉県立歴史と民俗の博物館だより第 15 ～ 18 号
- ・平成 23 年度要覧
- ・特別展 円空（こころを刻む）
- ・特別展 降嫁 150 年記念「皇女和宮と中山道」
- ・埼玉県民俗芸能調査報告書 大宮住吉神楽
- ・神楽を楽しむ 埼玉の神楽入門
- ・大名と藩 天下泰平の立役者たち

埼玉県立自然の博物館

- ・ニュースレター 瀧 第 14 ～ 17 号
- ・埼玉県立自然の博物館研究報告 第 5 号

埼玉県立さきたま史跡の博物館

- ・企画展 祈りとまじないの考古学
- ・企画展 スローフードの考古学
- ・館報 第 6 号
- ・紀要 第 6 号

埼玉県立嵐山史跡の博物館

- ・館報 第 30 号
- ・鎌倉街道周辺の文化財解説集

埼玉県平和資料館

- ・埼玉県平和資料館だより Vol.18(通巻 48 号)

さいたま文学館

- ・館報 第 14 号
- ・企画展 秋谷豊「地球の詩人」
- ・武蔵野を詠む 埼玉とホトトギス派の俳人たち

さいたま市立博物館

- ・第 22 回企画展 弥生時代の埼玉～ 2000 年前の遺跡～
- ・第 23 回企画展 縄文土器百選
- ・第 35 回特別展 受け継がれた文化財
- ・さいたま市博物館研究紀要第 10 集
- ・平成 22 年度 さいたま市立博物館年報

さいたま市立浦和博物館

- ・さいたま市立浦和博物館報 あかんさす 通号第 101 ～ 102 号

坂戸市教育委員会

- ・埋文さかど年報(平成 16 年度～平成 21 年度)
- ・上谷遺跡 上谷遺跡発掘調査報告書 2
- ・原遺跡 原遺跡発掘調査報告書 2
- ・宮町遺跡 宮町遺跡発掘調査報告書Ⅱ

幸手市教育委員会

- ・幸手市文化財だより第 8 号

財団法人サトエ記念美術館

- ・生誕 80 年記念 小松崎邦雄展～現代リアリズムの始祖・代表作を中心に多彩な生涯を辿る～

白岡町教育委員会

- ・開設 100 年写真で見る白岡駅展 写真図録 白岡町埋蔵文化財調査報告書
- ・第 20 集 山遺跡（第 7 地点） 白岡町遺跡調査会調査報告書
- ・第 9 集 入耕地遺跡 「第 1・3 地点」

学校法人 女子美術大学

- ・女子美 No.168 ～ 169
- ・CLOSET No.4
- ・A CROTOCAL JOURNAL ON CONTEMPORARY ART『Na*』
- ・CCD PLATFORM

大東文化大学ピアトリクス・ポター資料館

- ・大東文化大学ピアトリクス・ポター資料館 NEWSLETTER Vol.2

鉄道博物館（財団法人東日本鉄道文化財団）

- ・開館 4 周年記念特別企画展 時間旅行展
- ・駅の風景（コレクション展図録No.4）

鶴ヶ島市教育委員会

- ・鶴ヶ島市埋蔵文化財調査報告
- ・鶴ヶ島市内遺跡発掘調査報告書Ⅳ一天狗遺跡

第 5・9・10 次 仲道柴山遺跡第 7・10 次
神殿遺跡 B 第 2 次

- ・第 67 集 宮廻館跡
- ・第 68 集 上山田遺跡 7・8・10 次

戸田市立郷土博物館

- ・郷土博物館だより第 39 号
- ・平成 23 年度夏季企画展 イレモノいろいろ
～うつわの今昔～

日本工業大学工業技術博物館

- ・工業技術博物館ニュース No.78 ～ 82

蓮田市教育委員会

- 蓮田市文化財調査報告書
- ・第 48 集 宿上遺跡―第 18 地点― 山の内
遺跡―第 5 調査地点― 黒浜貝塚―物理探査
及び科学分析結果・年代測定結果報告―

鳩ヶ谷市立郷土資料館

- ・埼玉高速鉄道開通 10 周年記念特別展 変わる鳩ヶ谷
- ・平成 23 年度特別展 鳩ヶ谷の市宝～指定文化財と出土品でみる鳩ヶ谷の歴史～

鳩山町教育委員会

- ・展示に見る鳩山の歴史 出土品展示室展示図録
鳩山町文化財調査報告書
- ・第 1 集 近世鳩山農事日記
鳩山町埋蔵文化財調査報告
- ・第 36 集 町内遺跡 X
- ・第 37 集 今宿東遺跡群 IV
- ・第 38 集 十郎横穴墓群 II

羽生市教育委員会

- ・羽生市文化財調査報告書第 3 集 羽生市諸家
古文書目録 III

深谷市教育委員会

- ・深谷市指定文化財 柏合獅子舞 (DVD)
- ・黒田ささら獅子舞 深谷市指定文化財 (DVD)
- ・深谷の弥生時代～生活の道具と儀礼の道具～
深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書

- ・第 119 集 台耕地遺跡 (第五次)
- ・第 120 集 下郷遺跡 IV
- ・第 121 集 熊野遺跡 XII
- ・第 122 集 深谷市内遺跡 XVIII
- ・第 123 集 幡羅遺跡 VII・下郷遺跡 V
- ・第 124 集 白山遺跡 IV

富士見市立水子貝塚資料館

- ・平成 23 年度企画展 縄文土器と動物装飾 2

富士見市立難波田城資料館

- ・平成 23 年度春季企画展 水害と闘う ～富士見市の洪水被害と今～
- ・平成 24 年度春季企画展 世界一の砲丸職人

ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館

- ・第 25 回特別展 信仰と旅
- ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館・大井郷土資料館
- ・資料館通信 第 64 号

美里町教育委員会

- ・美里町遺跡発掘調査報告書 第 20 集
美里町遺跡調査会報告書
- ・第 9 集 長坂遺跡 I ―長坂聖天塚古墳隣接地
の調査―

宮代町教育委員会

- 宮代町文化財調査報告書
- ・第 16 集 金原遺跡群 (縄文時代以降編)
- ・第 17 集 宮代神社・地藏院・宿源太山・山崎山遺跡

宮代町郷土資料館

- ・平成 23 年度特別展 宮代の信仰
- ・齊藤甲馬と宮代 世界のどこにもないまちを創る

毛呂山町教育委員会

- 毛呂山町埋蔵文化財調査報告書
- ・第 24 集 毛呂山町 上殿遺跡―第 6 次発掘
調査報告書―
- ・第 25 集 上殿遺跡―第 2 次発掘調査報告書―
- ・やぶさめサミット in 毛呂山 2010 実施報告書

奇居町教育委員会

寄居町文化財調査報告

- ・第31集 町内遺跡14 中小前田2遺跡(第7次)
- ・第32集 むじな塚遺跡(第11次)力石遺跡(第1次)

寄居町遺跡調査会報告

- ・第34集 庚塚遺跡
- ・第35集 稲荷窪遺跡(第2次)

吉見町教育委員会

吉見町埋蔵文化財調査報告書

- ・第9集 町内遺跡5

蕨市立歴史民俗資料館

- ・蕨市立歴史民俗資料館紀要 第8号

〈千葉県〉

旭市教育委員会

- ・大原幽学遺跡「旧宅」半解体修理事業報告書

千葉県立中央博物館

- ・千葉県立中央博物館研究報告—人文科学— 第12巻第1号
- ・しいむじな 房総の山のフィールド・ミュージアム ニュースレター第30～32号
- ・中央博物館だよりNo.68
- ・海藻 35億年の旅人

千葉県立関宿城博物館

- ・平成23年度企画展 猿島茶と水運
- ・研究報告第15号

〈東京都〉

板橋区立郷土資料館

- ・平成23年度秋季特別展 明治・大正期の人 類学・考古学者伝

お札と切手の博物館

- ・お札と切手の博物館ニュース Vol.29

國學院大學研究開発推進機構伝統文化リサーチ

センター

- ・神道関係文化財報告書 西日本編
- ・平成23年度特別展 まつりの継承

(財) 渋沢栄一記念財団

- ・青淵 745～757号
- ・法学者・穂積陳重と妻・歌子の物語～渋沢栄一のひ孫・穂積重行氏オーラルヒストリーから～
- ・渋沢倉庫株式会社と渋沢栄一
- ・Shibusawa Memorial Museum Guide to the Exhibits
- ・渋沢栄一とアルペール・カーン～日仏実業家交流の軌跡～
- ・渋沢研究 第24号

実践女子学園 香雪記念資料館

- ・実践女子学園香雪記念資料館館報 第8号(平成22年度)

杉野学園衣裳博物館

- ・杉野学園衣裳博物館年報Ⅰ(2005年4月～2010年3月)

大東文化大学博物館学講座運営委員会

- ・大東文化博物館学講座だより 第4号

玉川大学教育博物館

- ・博物館ニュース「集」 No.36～37
- ・玉川大学博物館 年報 第9号
- ・玉川大学博物館 紀要 第8号

東京家政学院 生活文化博物館

- ・第23回特別展 刺繍の世界—刺繍作家 板垣文恵先生作品展—

独立行政法人 国立科学博物館

- ・milsil 通巻18～26号

(財) たましん地域文化財団

- ・多摩のあゆみ 第88号
- ・多摩のあゆみ 第103号
- ・多摩のあゆみ 第137号

(財) 日本博物館協会

- ・生涯学習施策に関する調査研究 博物館倫理

規定に関する調査研究報告書

- ・博物館研究 通巻 514 ～ 525 号

(社) 日本ユネスコ協会連盟

- ・ユネスコ世界遺産年報 2012

日本大学文理学部資料館

- ・開設 5 周年誌 館報～日本大学文理学部資料館の活動記録

三鷹市教育委員会

三鷹市埋蔵文化財調査報告

- ・第 33 集 天文台構内古墳

明治大学博物館

- ・明治大学博物館研究報告 第 16 号

明治大学黒耀石研究センター

- ・明治大学黒耀石研究センター紀要 第 1 号

NPO 法人国際縄文学協会事務局

- ・国際縄文学協会紀要 第 3 号
- ・縄文 21 号

〈神奈川県〉

横浜市歴史博物館

- ・横浜市歴史博物館ニュース No. 30 ～ 31
- ・横浜市歴史博物館調査研究報告 第 7 号

大磯町教育委員会

- ・Report ー大磯町郷土資料館だよりー No. 30 ～ 31
 - ・年報 平成 19 年度～平成 21 年度
 - ・企画展 大磯町の花の自然 「アオバト」町の鳥制定記念「大磯照ヶ崎のアオバト集団飛来地」神奈川県天然記念物指定 15 周年記念
- 三浦市教育委員会

三浦市埋蔵文化財調査報告書

- ・第 22 集 平成 19 年度遺跡試掘調査
- ・第 23 集 平成 20 年度遺跡試掘調査

〈長野県〉

長野県埋蔵文化財センター

- ・長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書

106 濁り遺跡久保田遺跡西一里塚遺跡群

箕輪町教育委員会

- ・上の林遺跡 平成 19・20 年度長野県箕輪進修高等学校新校舎増設に伴う第 7 次埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

〈新潟県〉

長岡市教育委員会

- ・長岡市立科学博物館報 No. 95

〈富山県〉

富山市教育委員会

富山市埋蔵文化財調査報告

- ・42 富山市百塚住吉 D 遺跡発掘調査報告書
- ・45 百塚住吉 D 遺跡発掘調査報告書 II
- ・48 富山市二本榎遺跡確認調査報告書
- ・50 富山城跡発掘調査報告書

〈静岡県〉

東海大学社会教育センター

- ・海のはくぶつかん Vol.41 No. 2 ～ Vol.42 No. 4
- ・東海大学社会教育センター年報 No. 38

〈愛知県〉

南山大学人類学博物館

- ・南山大学人類学博物館紀要 第 29 ～ 30 号
- ・南山大学人類学博物館オープンリサーチセンター 2010 年度年次報告書 付編 研究会・シンポジウム資料

〈三重県〉

松阪市教育委員会

- ・松阪市埋蔵文化財報告書 12 村竹コノ遺跡発掘調査報告書 (第 5 次)
- ・松阪市文化財センター年報 平成 22 年度

〈京都府〉

同志社大学歴史資料館

- ・同志社大学歴史資料館年報 第 14 号
- ・同志社大学歴史資料館調査研究報告第 11 集
岩倉忠在地遺跡Ⅱ

京都嵯峨芸術大学付属博物館

- ・京都嵯峨芸術大学付属博物館年報（5 号・合併号）
- ・重要無形民俗文化財「嵯峨大念仏狂言」 保存・伝承のための調査報告書

〈大阪府〉

豊中市教育委員会

- ・豊中市埋蔵文化財発掘調査概要平成 23 年度
- ・曽根遺跡第 1 次発掘調査報告書

〈兵庫県〉

関西学院大学博物館開設準備室

- ・関西学院の絵画Ⅱ Art of Bible ― 視る聖書の物語―
- ・戦後の演劇の世界 大阪労演とその時代Ⅰ

〈山口県〉

山口大学埋蔵文化財資料館

- ・山口大学埋蔵文化財資料館年報 5 山口大学埋蔵文化財資料館年報―平成 19 年度―
- ・季島^{シノ}・コホ^{コホ} 古墳群 第 154 号墳出土資料調査報告

〈高知県〉

高知県立歴史民俗資料館

- ・岡豊風日 第 75 ～ 76 号
- ・高知県立歴史民俗博物館年報 平成 21 年度
- ・高知県立歴史民俗資料館年報 平成 22 年度

〈福岡県〉

筑紫野市教育委員会

筑紫野市文化財調査報告書

- ・第 105 集 原田地区遺跡群 2
- ・阿志岐城跡Ⅱ 阿志岐城跡確認調査報告書
総括編

九州産業大学美術館

- ・色をみて、作家の精神

西南学院大学博物館

- ・西南学院大学博物館ニュース Vol.1 ～ 9
- ・西南学院博物館年報 第 1 ～ 3 号
- ・リスト教文化の東方伝播とその展開
- ・アイコン 東西聖像画の世界

〈大分県〉

大分市教育委員会

- ・大分市埋蔵文化財調査報告 2010 年度
- ・大友府内 17 中世大友府内町跡 87 次調査報告書

大分市埋蔵文化財発掘調査報告書

- ・第 51 集 辻古墳群
- ・第 104 集 末広遺跡 1
- ・第 106 集 大道遺跡群 4
- ・第 107 集 横尾遺跡 4
- ・第 108 集 下郡遺跡群「第 146 次発掘調査」
- ・第 109 集 米竹遺跡「第 4 次調査」
- ・第 110 集 米竹遺跡「第 5 次調査」

〈鹿児島県〉

鹿児島大学総合研究博物館

- ・news letter No.27 ～ 28
- ・鹿児島大学総合研究博物館年報 No.9

立正大学博物館年報 10

(平成 23 (2011) 年度)

平成 24 (2012) 年 4 月 30 日 発行

編集・発行 立正大学博物館

〒 360-0194 埼玉県熊谷市万吉 1700

TEL. 048 - 536 - 6150 FAX. 048 - 536 - 6170

E - mail : museum@ris.ac.jp

URL <http://www.ris.ac.jp/museum/>

印刷・製本；(株)アサヒコミュニケーションズ